

学校法人瀬木学園
愛知みずほ大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

愛知みずほ大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 瀬木学園
理事長名	瀬木 和子
学長名	西山 明德
ALO	服部 弘子
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活学科	生活文化専攻	70
生活学科	食物栄養専攻	40
	合計	110

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

愛知みずほ大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 6 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

創設以来、建学の精神・教育理念「保健衛生・科学知識の向上と、社会人としての知性豊かな人間形成のための教育の実現」を貫き、それから導かれた教育目標・目的を各専攻別に明確に確立し、内外に示し、学生及び教職員に共通に理解される努力をしている。

これを実現するために、健康生活の基盤である衣食住に関する実地的知識・技術の習得、各種資格取得を目指し、多様化するニーズに対応した教育課程を設けている。

教員組織は短期大学設置基準を満たし、教育環境は校地・校舎面積ともに同設置基準を充足している。講義室、演習室、実験・実習室、機器・備品も適切に備わっており、整備システムも確立している。また、図書館施設の規模と環境は十分に整備され、学生へのサービス体制も充実し、学内外への情報発信など図書館の活動も十分に行われている。

単位認定、取得状況は適切で、学生の授業評価を実施し、その情報が共有化されている。また、卒業後評価への取り組みもなされ、良好である。

学生支援においては、入学前教育と入学当初のオリエンテーションの実施、チューター制による学習支援や各種奨学金制度の設定、就職相談室による就職指導、学生・厚生委員会による進学相談など、体制の整備及び実施は機能している。

研究経費、研究紀要、機器・備品・図書、研究室、研修日等の研究活動条件は整備され、毎年定められた研究題目を基に、研究活動に取り組んでいる。

社会人の受け入れ、公開講座、講習会の実施など地域的社会活動への取り組みが推進されている。

寄附行為に基づき、理事会、評議員会ともに管理運営体制が確立し、教授会規程、各種規程に基づき、教授会等の運営体制も確立している。事務組織はよく整備され、各種業務も関係諸規程に基づいて適切に運営されている。人事管理は各種規程をよく整備し、適切に行われている。

関係法律、関係諸規程により、財務運営は適切に行われている。財務体質は、余裕

資金が十分あるが、収支バランスについては課題があり、関係者は現状を十分に認識し、改善策を検討している。

自己点検・評価は規程や組織の整備を基に実施され、報告書が毎年発刊・公表されており、実施体制は確立している。教職員全員が学生の日常にかかわりながら点検・評価を行い、授業改善、教育環境の充実に役立てており、改革・改善のシステム構築への努力がみられる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「健への教育」を建学の精神・教育理念とし、それを示すマークを作り、学内外の配布物はもとより日常使用する文具にも印刷し、建学の精神・教育目標の周知に努めている。また、入学前教育において、建学の精神を確認する課題を与え、教員が講評を行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 履修科目の選択は、シラバス及び学生生活の手引として配布される「短大生活ナビ」で適切に判断できるよう工夫されており、また、チューター制による個人相談指導も行われ、入念な確認と指導がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館は学生の利便性を考慮して、授業関連書架の設置、レポート課題提出用パスファインダー、移動図書館のシステムを設けている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 全学で運営・実行する行事等については、全教職員で行う「全体会」での検討を

経て行われており、全教職員に周知が図られ、業務遂行が適切に行われる体制となっている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 科目によって成績評価に偏りがみられ、向上のためにファカルティ・ディベロップメント（FD）活動や、教員間の情報交換を行うことが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 学内における研究発表の機会を設けるなど、研究活動への支援を図ることが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分あるものの、学校法人全体及び短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創設以来、建学の精神・教育理念を「保健衛生・科学知識の向上と、社会人としての知性豊かな人間形成のための教育の実現」として貫き、また、それから導かれた目標を「健への教育－豊かで活力ある健康社会に貢献する人をめざして－」とし、さらに、学科の教育目標を「保健衛生的見地に立った家政学」、教育目的を生活文化専攻では「健康で文化的な人間生活の創造を通じて社会に貢献していく知的で心豊かな女性を育成」、食物栄養専攻では「栄養・食生活の指導者として社会に貢献していく知的で心豊かな女性を育成」として明確に確立している。

また、建学の精神・教育理念及び教育目的・目標を内外に示し、学生及び教職員に理解される努力をしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・理念に基づく教育目的・目標を実現するために、健康生活の基盤である衣食住に関する実際的知識・技術の習得及び健康で豊かな人間生活の創造を通じて社会に貢献できる資格取得を目指した教育内容で、また開講科目数も多く、多様化するニーズにも対応した体系的に編成された教育課程である。

また、各科目の授業内容、教育方法及び評価方法は、シラバスで学生に提示され、さらに、学生の授業評価の導入や学生相談機能の充実による教育改善への取り組みが行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準を満たしている。

教育環境については、校地・校舎面積ともに同設置基準の規定を充足している。講義室、演習室、実験・実習室及び授業用の機器・備品は適切に備わっており、その整備システムも確立している。

図書館施設の規模と環境は十分に整備され、蔵書数及び座席数も適切である。学生へのサービス体制も充実しており、学内外への情報発信など図書館の活動も十分に行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定及び取得状況は適切であり、学生の授業評価を実施し、その情報が共有化され、教育目標の達成へ努力がみられる。

学生の卒業後評価については、これまでの養護教諭資格取得者は県内の公立小・中学校に勤務し、就職先から良い評価を得ている。栄養士希望就職率は良好である。また、アンケート実施により卒業生とも接触が図られており、卒業後評価への取り組みに生かされている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学予定者には建学の精神に関する課題を与え、入学前教育を実施している。また、入学後 3 日間のオリエンテーション実施により、入学に関する支援を行っている。学習支援は組織的に行われており、学生生活支援では各種奨学金制度が設けられている。進路支援は、就職については就職相談室が対応し、高い就職率を維持しており、進学については教務委員会や学生・厚生委員会などが相談にのり四年制大学への編入学にも成果をあげている。社会人入学の実績、障がい者への支援体制が整い、多様な学生に対する支援も行われている。

評価領域Ⅵ 研究

研究経費、研究紀要の発刊、機器・備品・図書、研究室、研修日など、研究活動のための条件は整備されている。

毎年研究活動題目を定め、教育の基礎となる研究活動に取り組んでいるが、現在論文発表などの成果には至っていない。しかし、平成 19 年度から「瀬木学園紀要」が発刊されたことで、今後の研究活動の展開が期待される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

教員の国際的な交流や協力は現状では活発ではないが、公開講座開講のほか、日本赤十字社救急員養成講習会の開催や「高田コミュニティーセンター」との連携を行っ

ている。さらに、「社会人入試」を実施して社会人を受け入れている。また、学生のボランティア活動も活発になりつつあり、地域の社会活動への取り組みが推進されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為に基づき、理事会、評議員会ともに管理運営体制が確立しており、教授会規程及び各種規程に基づき、教授会等の運営体制も確立している。

事務組織はよく整備され、各種業務も関係諸規程に基づいて適切に運営されており、人事管理も、各種規程をよく整備し、適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

関係法律及び関係諸規程の定めるところにより、財務運営は適切に行われている。余裕資金は十分あるものの、学校法人全体及び短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。しかし、関係者はこのことを認識しており、その改善策を検討している。今後は学生確保のためのさらなる改善努力が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価については、規程や組織の整備を基に定期的実施され、報告書が毎年発刊・公表されており、実施体制は確立している。また、教職員全員が学生の日常にかかわって、自己点検・評価を行い、それを授業改善及び教育環境の整備・充実に役立てていることから、改革・改善のためのシステム構築への努力がみられる。